

人間社会学部におけるキャリア女性学副専攻の動向

田部俊充

本稿では、2011年度の間社会学部におけるキャリア女性学副専攻の動向を概観し、キャリア女性学の新しい方向性として、川崎市との地域連携に関する取組を簡単に紹介したい。

キャリア女性学専攻の創設は、2002年度に副専攻制度を設けた時に遡る。人間社会学部の5つの学科（主専攻）と、それらを横断する3つの副専攻コースを開設することで、キャリアプランに直結する実践的なプログラムの提供を狙いとした。

2006年に「現代の女性高等教育ニーズに応じた多領域横断型副専攻プログラムの再編成」というテーマで大学教育高度化推進特別経費補助金と学内の特別重点化資金を得て、従来の副専攻制度は、現代の女性高等教育ニーズに応じた多領域横断型プログラムである「キャリア女性学副専攻」へと再編された。

2007年度より、現代女性のライフコースをふまえたキャリア形成に資することをめざす副専攻として「キャリア女性学副専攻」が始まった。キャリア女性学副専攻の特徴は、既設の副専攻制度を活かして、①地域・行政コース、②国際活動コース、③情報技術コース、のいずれかを選択して履修することにある。地域・行政コースは、公務員をはじめとして、さまざまな地域活動で活躍する人材の養成を視野に入れ、経済や法律、行政などの科目に力点が置かれている。情報メディアコースは、コンピュータを駆使する領域をめざす人が、おもに情報技術や情報メディアの処理論やその実際の応用を学ぶ。外国語を活かした社会活動を目指す学生のためには国際活動コースが準備されており、そこでは、外国語の実践的能力や諸外国の文化・歴史の集中的学習が目指される。各コースでは、具体的なキャリア形成の基礎となるようなベーシックな授業科目を選択することができるのみならず、キャリアプランに直結する実学的な授業科目として地域活動講座、国際活動講座、「コンピュータライゼーションと現代の諸問題」という実践的な授業が必修科目として配置されている。

また、キャリア女性学コア科目を設けることで、いずれのコースを選択しても、女性のライフコースを基盤としたキャリア設計に役立つように工夫した。キャリア女性学コア科目は、1)キャリア形成、2)キャリア制度、3)ビジネス系、4)ライフコース系、という四つの科目群から構成されており、それぞれの科目群には複数の科目が置かれている。各々の科目群は、それぞれ、1)ライフコースと女性の生き方や現代の家族事情を知る科目（現代女性の生き方を考える）、2)労働事情を知りキャリアデザインを考える科目（現代社会での働き方を考える）、3)女性たちの仕事の実際を知る科目（さま

ざまなビジネスやキャリアのありかたを知る)、4)具体的な労働の場における諸問題と法律を学ぶ科目(キャリア女性をめぐる問題と解決法の実際を知るために)、として配置された。

2011年度におけるキャリア女性学副専攻の履修状況は、3年次は総計153名、在籍者数の28.6%、2年次は総計141名、在籍者数の28.5%が副専攻のいずれかのコースを履修している(表参照)。キャリア女性学副専攻では、2年次のはじめに登録し、3年次に所定の単位が取得されていると、4年次に単位修得証明書を発行しており、その証明書が就職活動に役立つように配慮されている。

2011年3月、キャリア女性学副専攻の最初の履修者が副専攻修了証書を授与された。人間社会学部におけるキャリア女性学は、今後も現代的な課題に対応できるよう改革を続けていく必要がある。

2011年7月21日、川崎市との連携協定の締結により、人間社会学部は新しい一歩を踏み出した。川崎市内では、専修大学、明治大学、慶應義塾大学に次いで4大学目の協定締結である。

2005年に専修大学、明治大学とともに「多摩区・3大学連携協議会」設置協定を締結して以降、生涯学習センターにおける川崎市との連携講座の開講、多摩区内を中心に学校教育ボランティア学校サポート事業、読売ランド駅前の地域活動拠点サクラボによる地域連携活動等を実施してきた。

この協定を機に、連携・協力を進める分野は以下の通りである。

- (1) 地域社会と連携した学術研究や教育の実践に関すること
- (2) 地域社会や地域産業との連携による新しい産業の創出・振興に関すること
- (3) 市民の生涯学習の推進に関すること
- (4) 教育研究施設の市民利用に関すること
- (5) 新たな地域社会や社会経済づくりに向けた政策研究に関すること
- (6) その他、本協定の目的の達成に向けて、相互の連携・協力に資する事業を行う

今後は、これまでの成果を踏まえ、連携事業の川崎市域全体への展開や連携内容の拡大等を検討している。具体的には、学校教育ボランティア学校サポート事業の川崎市内への拡大を検討するほか、新たに平成23年度後期より学校インターンシップ事業の実施を予定している。

これらの取組は、地域をフィールドとする、キャリアプランに直結する実践的なプログラムの提供を増やし、日本女子大学におけるキャリア女性学の益々の充実に寄与するのではないかと考えている。

キャリア女性学副専攻は、これからも人間社会学部の多様な教育プログラムとして、社会に貢献しつつ現代社会の諸問題を解決する能力を育てていきたい。

表 人間社会学部キャリア女性学副専攻履修状況 2011年4月

2年次	現社	社福	教育	心理	文化	計
地域・行政コース	13	20	11	7	4	55
国際活動コース	11	4	8	12	36	71
(英語)	(2)	(1)	(7)	(5)	(13)	(28)
(ドイツ語)	(1)	(1)	(0)	(3)	(6)	(11)
(フランス語)	(0)	(1)	(1)	(2)	(5)	(9)
(中国語)	(7)	(1)	(0)	(1)	(5)	(14)
(イタリア語)	(1)	(0)	(0)	(1)	(7)	(9)
情報メディアコース	3	5	1	0	6	15
計	27	29	20	19	46	141

在籍者数	97	109	101	58	130	495
在籍者数に対する履修者数割合 (%)	27.8	26.6	19.8	32.8	35.4	28.5

3年次	現社	社福	教育	心理	文化	計
地域・行政コース	35	32	9	5	1	82
国際活動コース	11	4	8	6	24	53
(英語)	(1)	(2)	(6)	(4)	(11)	(24)
(ドイツ語)	(1)	(0)	(0)	(1)	(0)	(2)
(フランス語)	(2)	(1)	(1)	(0)	(7)	(11)
(中国語)	(6)	(1)	(1)	(0)	(3)	(11)
(イタリア語)	(1)	(0)	(0)	(1)	(3)	(5)
情報メディアコース	3	2	2	2	9	18
計	49	38	19	13	34	153

在籍者数	99	105	126	82	123	535
在籍者数に対する履修者数割合 (%)	49.5	36.2	15.1	15.9	27.6	28.6

※在籍者数は、2011年5月2日現在

西生田学務課作成
(たべ としみつ 人間社会学部教育学科教授)